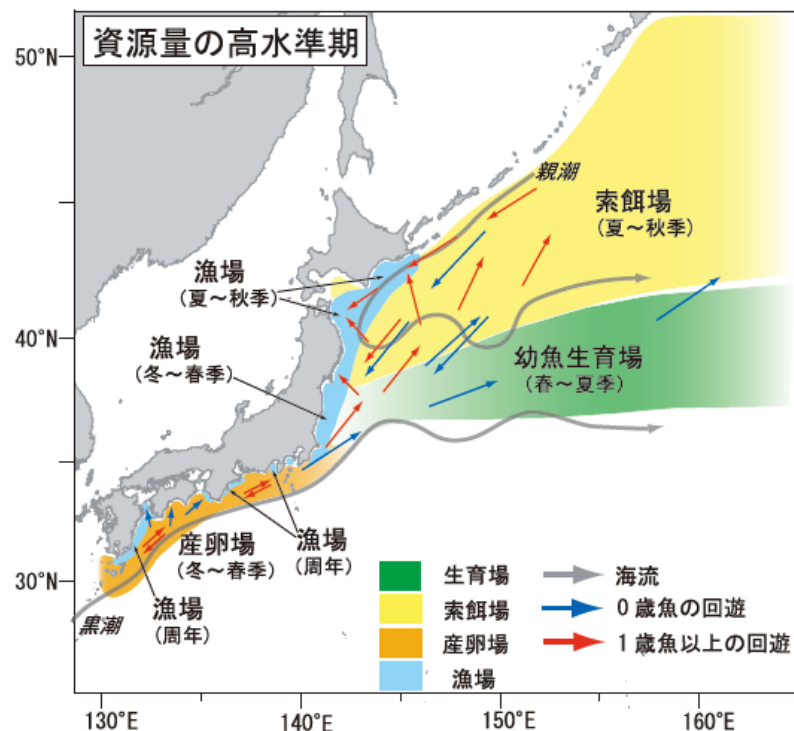
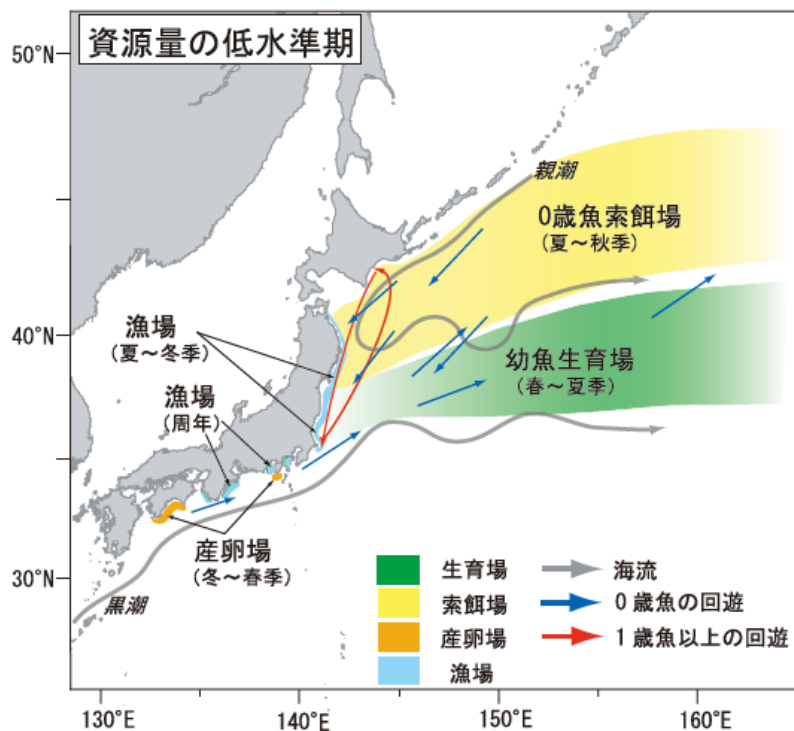




マイワシ太平洋系群 令和元(2019)年度資源評価結果

生物学的特性

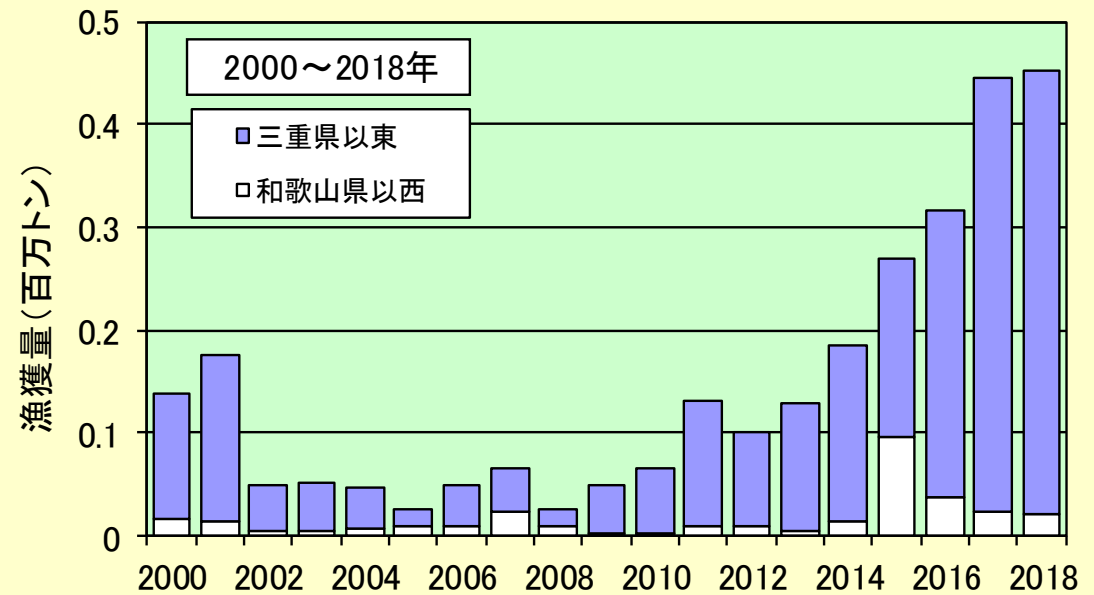
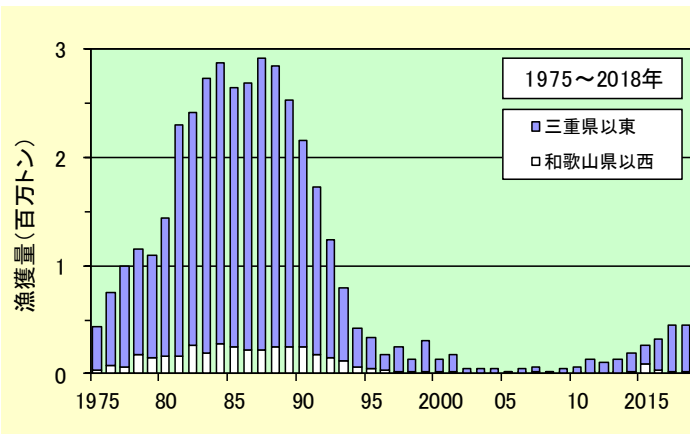
マイワシ太平洋系群の生活史と漁場形成模式図



生物学的特性

- 寿命：7歳程度
- 成熟開始年齢：1998～2015年は1歳（50%）、2歳（100%）。2016年以降は1歳（20%）、2歳（100%）
- 産卵期・産卵場：11～翌年6月で、最近の盛期は2～4月。産卵場は四国沖～関東近海
- 食性：仔稚魚期は動物プランクトンを捕食、成魚は珪藻類も濾過摂餌する
- 捕食者：中・大型の魚類、イカ類、海産ほ乳類、海鳥類

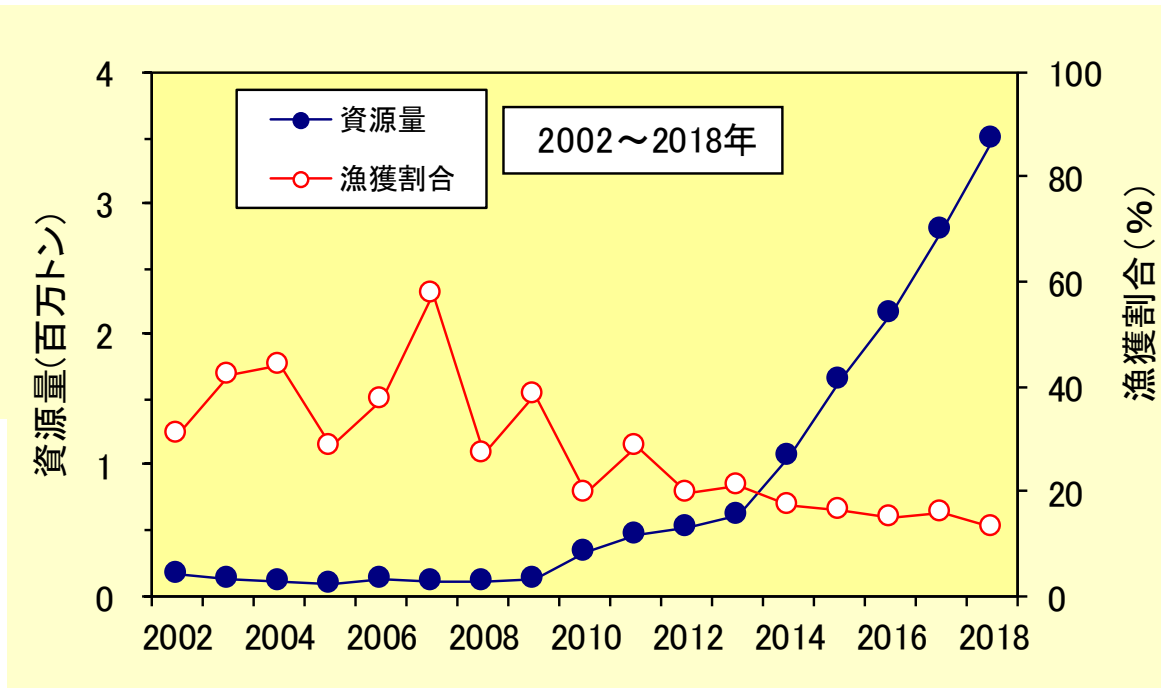
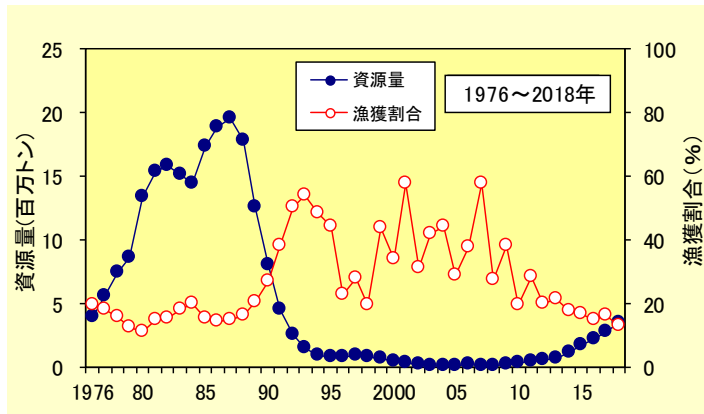
漁獲の動向



● 2018年の漁獲量 45.1万トン

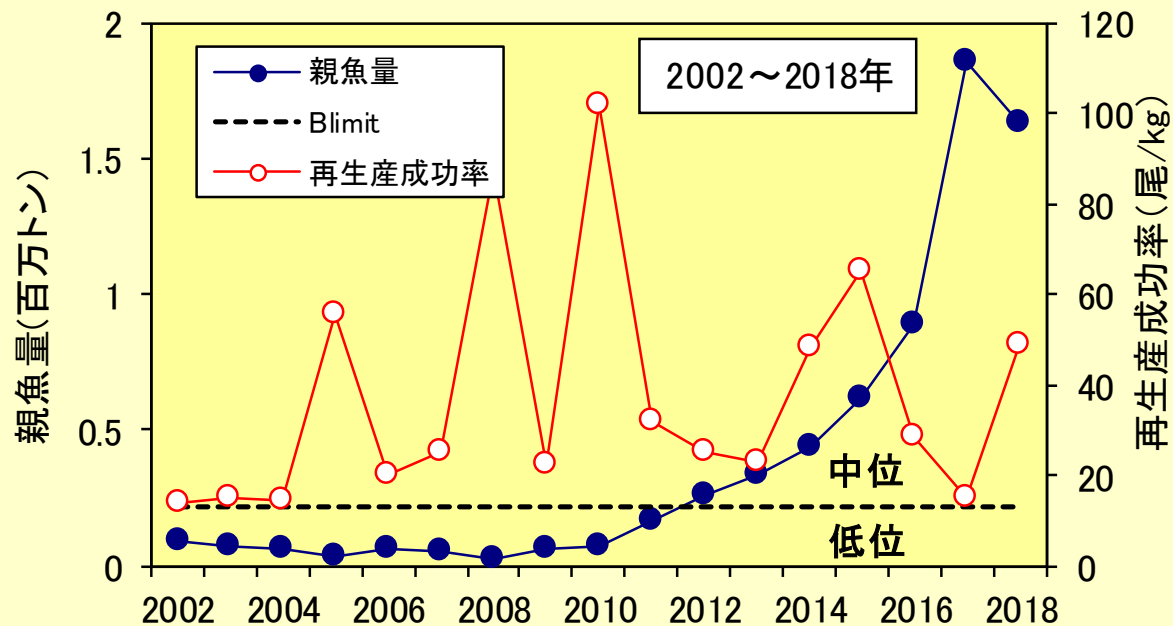
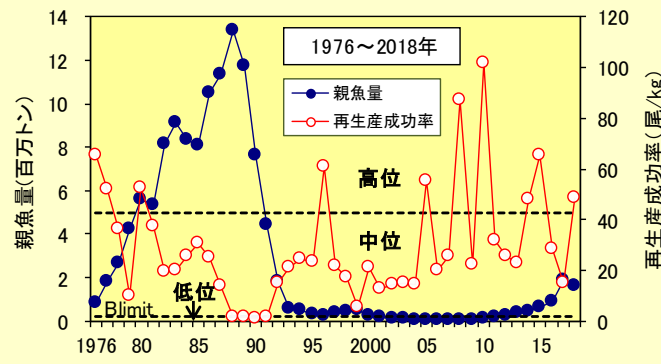
2011年に大きく増加して10万トンを上回り、その後も増加傾向にある。

資源の動向①



- 資源量： 2010年以降、増加傾向
2018年は348万トン
- 資源動向： 過去5年間の推移から「増加」
- 漁獲割合： 最近は15%前後と低い水準で推移

資源の動向②



※水準区分 低位／中位: Blimit (22.1万トン)
中位／高位: 親魚量500万トン

●親魚量: 2018年は163万トン

●Blimit: 1996年水準の親魚量 (22.1万トン)

この値を下回ると、良好な加入量が期待できなくなる

●2018年の親魚量は、Blimitを上回る中位水準

●再生産成功率は、近年は比較的高い傾向

資源評価のまとめ

- コホート解析により資源量を推定した。
産卵量、加入量、1歳魚資源量を反映する3つの資源量指標値を用いてチューニングを行った。
- 資源量は2010年以降、増加傾向にあり、2018年は348万トンと推定された。
- 近年の再生産成功率は比較的高い傾向にあり、親魚量の増加も相まって、2010年以降、良好な加入が継続している。
- 2018年の親魚量はBlimitを上回っていることから、資源水準は中位、過去5年間の資源量・親魚量の推移から、資源動向は増加と判断した。

2020年ABC表

資源量(2020)=5,462千トンを仮定、親魚量(2018)=1,629千トン、Blimit=221千トン

| 漁獲シナリオ (管理基準) | Target/Limit | 2020年 ABC (千トン) | 漁獲割合 (%) | F値 (現状のF値 からの増減%) | 2025年の親魚量 (千トン) (80%区間) | 確率評価(%) | |
|-----------------------------|--------------|-----------------------|-------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------------|---------------------|
| | | | | | | 2025年に2018年 親魚量を維持 | 2025年に Blimitを維持 |
| 現状の漁獲圧 の維持 (Fcurrent) | Target | 844 | 15 | 0.29 (-20%) | 6,739 (2,259~12,563) | 99 | 100 |
| | Limit | 1,025 | 19 | 0.36 (±0%) | 5,296 (1,733~9,993) | 92 | 100 |
| 親魚量の増大 (F30%SPR) | Target | 1,139 | 21 | 0.41 (+13%) | 4,527 (1,458~8,601) | 86 | 100 |
| | Limit | 1,368 | 25 | 0.51 (+41%) | 3,247 (1,013~6,249) | 73 | 100 |
| 親魚量の維持 (Fmed) | Target | 1,173 | 21 | 0.42 (+17%) | 4,311 (1,381~8,207) | 84 | 100 |
| | Limit | 1,408 | 26 | 0.53 (+47%) | 3,057 (949~5,897) | 70 | 100 |